

木と共に生きて

細田安治

7

「商人になれ」

1946年（昭和21年）4月、敵父から「お前は商人の息子だ。商業学校がよい」と言われ、越中島にある東京府立第三商業学校に入学した。「商人の基本は算盤だ。算盤を習って水揚げ丸太の算当たりをしなさい」と言われ、算盤塾に通った。夜は「算当りの済み 細田安治」のゴム印をもらい水揚げ丸太の算当りをした。

当時の店員の計算は大雑把でけっこう間違っていた。間違いを指摘すると叱られるので、嫌な顔をする店員もいた。
◇ここでの教訓 確認手エックは商売の基本だ。

担ぎ出し山積み

何でも来い

担ぎ出しや山積みなどの手伝いも随分やらされた。専門の棧積み人足を抱え実到手際よく仕事をこなす阪下組には怖い親父がいて有名だった。
私は政やんという親父の下で盛りを過ぎた人足に混じり、阪下組が手間に合わない相手にならない小物の積み降し等をもつぱら手伝っていた

個人から法人に改組

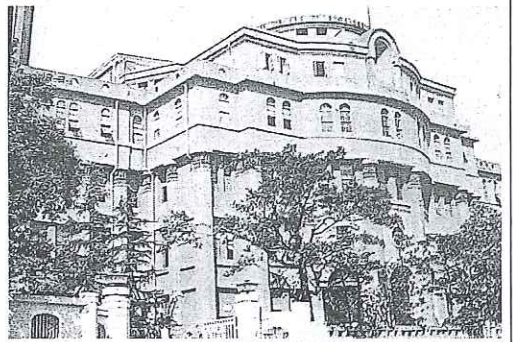
三商時代は、細田三郎製

材所から細田木材工業株式会社へ改組、個人商店から会社へと進んだ。朝鮮動乱などを経て調子が悪くなり苦しい時期であった。
52年（昭和27年）、三商を卒業し、明治大学に入る時期だ。使い走りは自動車で、「配達はバーハンドルでケツチンが怖いキック式ターイハツ三輪車だった。無免許運転し木場うちを平気で配達した。このころはやかましくなかった。

トラックの上乗り

トラックに米軍のBボックスと称するエンジンボックスと称するエンジンボックス

クスを山のように積み、その上に腰かけてというかしがみつき、鶴見や追浜の工場へ運んだ。トラックが悪路のために揺れる。
もし、落ちたら大けがはおろかあの世行きとなる危険な仕事だった。
この当時は、トラックから転落して怪我した事例は山ほどあった。それこそ命がけの仕事であった。私は怖いもの知らず、ロープに寝そべるようにしがみつき、よくぞ鶴見や追浜まで行ったものだ。
夏は炎天下、冬は吹きさらしで鶴見に1時間、追浜へは3時間ぐらひはかかった。



明治大学駿河台校舎（当時）

マキ、均等にはらまけているかの実技試験だった。事前の講習でスコップの扱いを教えられたが、要領を得ず、会社へ帰り、実際にボイラーにオカ屑を投げ込む練習を繰り返して、当日に備えやつと合格した。
一緒に受けた農大出はプロだったが実技で失格となった。試験をなめると手痛い目にあう。何でも一生懸命にやれば出来る、ここで、「なせば成る」を覚えた。

◇ここでの教訓 「なせば成る」だが、その前に仕事を「甘くみてはいけない」。これは、何事にも通ずる永遠の法則だ。
体は、小さいが、怖いものななかった。明治大学では、政治経済学部経済学科に入学した。体育会には柔道部に入った。小さいものが大きなものを倒す魅力に取りつかれ、怖いものなぞで入部した。
ところが、この柔道部たるや大変なところだった。当時の明大柔道部は、六大学ではナンバーワン、警視庁と五分の試合ができる強豪だ。
入部して2日目。前日使ったてておいた自分の柔道の着がない。見知らぬ山男風の黒帯が細田と書いてある道着を無断で着用している。「それは私のです」といっても、「何だ、新入りで白帯の帯に大きな顔するな。俺のがそこにあるそれを着ろ」。
汚れて汗臭い道着を我慢してやつとの思いで着替える。私の道着をきた山男が、「稽古付けてやる」と言ってひっぱりだされ、コテンパンに投げ飛ばされた。それもひどいもので、壁際の羽目板のそばで、羽目板へ向かってハネ腰、払い腰で投げつけられた。
この男は、黒帯といっても田舎初段。ほかの仲間や先輩に投げ倒されては、自分より強い相手ばかり。たまたま、私が白帯で新入り。しかも手じと来ているため、これ以上の力毛はない、とはかり稽古をつけたわけだ。
しかし、道場でこんなことは当たり前だろうと思いつた。2年ほど我慢して通った。しかし、「柔よく剛を制す」「小さいものが、大きなものを投げ飛ばす」といふのが、やはり、体重、体の大きさに制限されこの通りには行かない。特に寝技で押さえ込まれたら動きようがない。
今なら体重制があるもので、私でも軽量級なら結構やれたと思う。さきほどの山男も締め技で落とすことも可能だ。残念ながら当時は、オール無差別制だった。こんなことから、怖いものを知って2年間我慢した柔道部におさらばした。
◇ここでの教訓 「柔よく剛を制す」といふが、体重制がなければ通用しない。何事も、ルールが必要だ。
〓次回は22日付〓



東京府立第三商業高校の入学式

たと記憶している。吹きさらしで全身凍えるような寒さ、手はがちがちにかじかんて、感覚がなくなるような始末であった。時には雨降りてびしょ濡れになった。こんな経験をしたので少々のことには平気で我

分け、なんでもやった。ボイラーの免許取得
もうひとつ在学中、木材屋修業の最後の仕上げとして忘れてはならないのが、二級ボイラーマンの免許取得だ。「乾燥工場がボイラーマンが不足した時に困るから、お前はスペアとしてボイラーマンの免許を取れ」との命令で、東京農業大学卒のプロ乾燥部社員と二人で夜間講習に通い、学科と実技を受験した。実技試験は、柵目に区切られたボイラーの燃焼口から、スコップで石炭をバラ

明治大学柔道部
体は、小さいが、怖いものななかった。明治大学では、政治経済学部経済学科に入学した。体育会には柔道部に入った。小さいものが大きなものを倒す魅力に取りつかれ、怖いものなぞで入部した。
ところが、この柔道部たるや大変なところだった。当時の明大柔道部は、六大学ではナンバーワン、警視庁と五分の試合ができる強豪だ。
入部して2日目。前日使ったてておいた自分の柔道の着がない。見知らぬ山男風の黒帯が細田と書いてある道着を無断で着用している

〓次回は22日付〓
(細田木材工業(株)会長)